



スイラン

## 1、2024年度作業報告 - 1

2024年度は11月から開始する通常の植生回復作業とは別に、シカによる食害対策として忌避剤（ウルフピー）を9月14日に設置しました。以下では、設置作業の内容と経過を報告します。また11月5日（火）からは今年度の植生回復作業を開始しています。



設置容器の構造

### 1) シカ対策で忌避剤を設置（一の沢湿地のサワギキョウ）



シカ忌避剤（ウルフピー）



ウルフピー設置準備

昨年、一の沢湿地中心部で葦毛湿原では最も大きな群落だったサワギキョウの花がニホンジカに食べられてしまいました。そこで今年はシカ対策の忌避剤として、「ウルフピー」（ハイイロオオカミのオシッコ）を設置しました。ウルフピーはホームセンターで害獣対策として販売している忌避剤です。1袋に原液100ccと小分けの容器10個が入っています。2袋用意して、20か所に設置しました。

設置は園芸用の細い鉄製の支柱を用意し、忌避剤が入った容器は匂いが出るように上部の肩を切り取ってあるため、雨が入らないように薄い透明なプラスチック板でカバーを作り（右写真）針金で固定しました。支柱は手で刺し、高さは地表から30~40cmほどで湿原の見学者からは見えないように設置しました。雨で薄まることもなく、順調に推移しました。



### 設置後の状況（2024年10月15日・10月12日）

設置後はシカの侵入は無く、食害はありませんでした。昨年はサワギキョウの花が咲かないことで食害に気づきましたが、今年はサワギキョウが開花し、10月12・15日時点では見事に咲いていました（上・右写真）。その後も、順調に開花が進み、無事開花も終了したので効果があったと判断していました。

しかし、11月9日に現地を確認したところ、ほぼすべてのサワギキョウが花のあった部分（おそらく種子ができていたところ）を食べられていました。最も栄養分のある花や種子のある部分のみが食べられていたので、明らかに選択的に食べていることが分かりました。サワギキョウの種子はわずかに残っていましたが、ほぼ全滅に近い状況でした。

ウルフピーの効果は1ヶ月程度とされていたので、効果が無くなってから食べられた可能性もありますが、はっきりとは分かりません。



サワギキョウ開花状況近接写真



### 食害の状況（2024年11月10日）

## 2) シカ対策で忌避剤を設置（三太郎池湿地のミコシギク）

豊橋市指定天然記念物「三太郎池湿地」では、ミコシギク保護のためシカ対策の防鹿ネットをD地点（最後に残った自生地点）に設置しています。防鹿ネットの効果は大きく、設置後シカに侵入されたことはありません。池のほとりのB地点で1輪だけ開花した個体があり、ここは防鹿ネットを設置してないので、念のためにウルフピーを設置しました。開花は順調に進みましたが、花卉がほとんど落ちて開花が終わった段階で食べられてしまいました。おそらく、ニホンジカによる食害と考えられます。

残念ながら、三太郎湿地の状況からは、ウルフピーの効果はあまりないと思われます。



B地点のミコシギク（2024年10月28日）



食べられたミコシギク（11月14日）

## 3) QR地点の作業

Q・R地点は明治時代の初めころに開墾されて水田ができたところで、幅6～7m、長さ20～70mの長方形の整然とした区画が6段続く棚田になっています。完全に森林化していましたが、木の伐採と伐根を行って畔と水路を作り直し、湿地と冬水田んぼ（一年中水がある池状の環境）を再生したところです。

これまでも大雨が降ると畔や水路が壊れ修理してきましたが、今年の6月の豪雨で畔が広範囲に破損しました。今年の作業で旧水田全体の畔と水路を補修して湿地と冬水田んぼとして再生させる予定です。

下左写真は昨年作業終了直後の状況で、画面中央に水路が、奥に冬水田んぼとして再



Q・R地点（2024年4月4日）



Q・R地点（2024年9月29日）

生した池が見えています。除草作業が終わって春になり、植物が発芽し始めている状態です。右側は約半年後の状況で、画面中央の水路は見えなくなり、ハナビゼキショウ、ヌマトラノオ等の湿生植物等の様々な植物が密生しています。

右写真は今年の植生回復作業で除草した状態です。冬で水量が少なく、水路にも水があまりなく、池もほとんど干上がっている状態です。画面右側が低くなって水路が通っており、この水路に旧水田から水が流れ込み排水される構造になっています。まず、右側の土手を修理する予定です。



Q・R地点（2024年12月9日）

## 2. コオニユリが食べられました！

コオニユリは7月18日に1回目の人工授粉を行い、8月15日に9回目の人工授粉を行いました。人工授粉はうまくいき種子も順調に成長していましたが、今年はほとんどが食べられてしまいました（下写真）。何が食べているのか現場を確認できていませんが、昆虫の食害である可能性が高いと考えています。残念ながら、今年はほとんど種子ができず全滅に近い状態でした。また、これまで出ていた地点で発芽が確認できなくなった所もありますが、R地点の池のほとりからコオニユリの新たな発芽を確認しました。葦毛湿原のコオニユリの個体数はかろうじて小康状態を保っています。



食べられたコオニユリ（2024年9月8日）